

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月8日
【四半期会計期間】	第50期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社ストライダーズ
【英訳名】	Striders Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 早川 良一
【本店の所在の場所】	東京都港区新橋五丁目13番5号
【電話番号】	03(5777)1891
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 兼 CFO 前田 嘉也
【最寄りの連絡場所】	東京都港区新橋五丁目13番5号
【電話番号】	03(5777)1891
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 兼 CFO 前田 嘉也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第2四半期 連結累計期間	第50期 第2四半期 連結累計期間	第49期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高 (千円)	720,674	1,225,275	1,689,293
経常利益又は経常損失 () (千円)	98,404	834	113,755
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失 () (千 円)	98,131	61,509	353,818
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	113,486	23,370	311,247
純資産額 (千円)	1,071,410	1,031,153	988,333
総資産額 (千円)	1,642,536	1,929,463	1,992,293
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期)純損失金 額 () (円)	1.32	0.76	4.74
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	0.76	-
自己資本比率 (%)	63.9	52.1	48.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	74,816	3,932	45,827
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	205,743	354,719	562,471
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,004	29,440	383,560
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	485,909	942,395	562,123

回次	第49期 第2四半期 連結会計期間	第50期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	0.64	0.03

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第49期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。また、第49期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況
1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済政策、金融政策等を背景に円安や株価上昇が進み、個人消費も回復に向かうなど徐々に景気回復に向けた兆しが見られるようになりました。

このような経済状況下、当社グループ（当社及び連結子会社）は、M&Aによる新たな収益源の獲得や新規顧客獲得に向けた営業努力を重ねる一方、人件費・外注費の削減等のコストダウンに努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は売上高1,225百万円（前年同四半期比70.0%増）、営業損失45百万円（前年同四半期は営業損失117百万円）、経常利益0百万円（前年同四半期は経常損失98百万円）、四半期純利益61百万円（前年同四半期は四半期純損失98百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

IT関連事業

IT関連事業につきましては、Webマーケティング事業の中古車情報検索・車買取一括査定サイト「BUY CAR JAPAN」は、主要キーワードによる検索順位の低下が続き、売上が減少しております。また、モバイルリンク株式会社がやっている車載端末システムの受託開発は、契約およびシステムの導入が期末に集中する傾向が強く、新規顧客獲得に向けた営業活動に注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間のIT関連事業の売上高は69百万円（前年同四半期比33.9%減）、営業損失は16百万円（前年同四半期は営業損失26百万円）となりました。

不動産賃貸管理事業

不動産賃貸管理事業につきましては、新設住宅着工件数（貸家）は引続き増加傾向にあり、マーケットは回復基調にあります。このような状況下において、株式会社トラストアドバイザーズは、ワンルームやコンパクトタイプの物件管理に特化し、マーケット環境及び物件の特性を的確に捉えた営業活動を積極的に展開し、入居率向上や、賃料水準の維持を図ってまいりました。新規のサブリース契約が順調に増加しており、売上の増加に寄与しております。なお、都内2カ所で不動産仲介を行っていた店舗を8月末に事業譲渡いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の不動産賃貸管理事業の売上高は702百万円（前年同四半期比30.0%増）、営業利益は20百万円（前年同四半期は営業損失9百万円）となりました。

食品関連事業

食品関連事業につきましては、中華麺等の製造販売を行っている有限会社増田製麺は、神奈川エリアにおける横浜家系ラーメンの製麺を主力とし、従来からの品質の維持に加え、業務の効率化やコスト削減等に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の食品関連事業の売上高は107百万円（前年同四半期比72.5%増）、営業利益は14百万円（前年同四半期比208.8%増）となりました。

ホテル関連事業

ホテル関連事業につきましては、成田空港エリアで成田ゲートウェイホテルを運営しており、景気回復に伴う日本人海外旅行客数の増加、台湾を中心とした訪日外国人旅行客数の増加等により、宿泊者数は増加し、平均稼働率も高水準を保っております。

この結果、当第2四半期連結累計期間のホテル関連事業の売上高は342百万円、営業利益7百万円となりました。ホテル関連事業の前年同四半期比については、前第4四半期より開始した事業のため記載しておりません。

その他の事業

その他の事業につきましては、M & Aグローバル・パートナーズ株式会社において企業再生再編事業を行っており、資金調達等のコンサルティング業務に取り組んでまいりました。また、グローバル芸術家有限責任事業組合において現代美術家の絵画作品等に投資を行っており、作品価値の向上を図るため、展示会への出品等を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間のその他の事業の売上高は3百万円（前年同四半期比74.0%減）、営業利益は0百万円（前年同四半期は営業損失9百万円）となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,110百万円となり、前連結会計年度末に比べ355百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が380百万円増加したことによるものであります。固定資産は818百万円となり、前連結会計年度末に比べ417百万円減少いたしました。これは主に投資その他の資産が418百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、1,929百万円となり、前連結会計年度末に比べ62百万円減少いたしました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は420百万円となり、前連結会計年度末に比べ91百万円減少いたしました。これは主に買掛金が38百万円、未払金が52百万円減少したことによるものであります。固定負債は477百万円となり、前連結会計年度末に比べ13百万円減少いたしました。これは主に繰延税金負債が21百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、898百万円となり、前連結会計年度末に比べ105百万円減少いたしました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,031百万円となり、前連結会計年度末に比べ42百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益61百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は52.1%（前連結会計年度末は48.1%）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は942百万円となり、前連結会計年度末に比べ380百万円増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、税金等調整前四半期純利益の計上や、為替差損益等により3百万円の資金の減少となりました。前年同四半期と比べますと70百万円の増加となっております。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益が162百万円増加したこと、為替差損益が75百万円減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、投資有価証券の償還による収入等により354百万円の資金の増加となりました。前年同四半期と比べますと560百万円の増加となっております。

主な要因は、投資有価証券の償還による収入が418百万円増加、事業譲受による支出が100百万円増加、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が122百万円増加したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、29百万円の資金の増加となりました。前年同四半期と比べますと32百万円の増加となっております。

主な要因は、長期借入れによる収入が30百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、IT関連事業の販売実績が前年同四半期に比べ著しく減少しておりますが、これは、法人向けネットワークセキュリティ商品「SMART FILTER」の販売を前第2四半期に終了したためであります。

また、食品関連事業の販売実績が前年同四半期に比べ著しく増加しておりますが、これは、有限会社増田製麺を平成24年5月31日付で連結子会社化したためであります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	81,330,896	81,330,896	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	81,330,896	81,330,896	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	1,000,000	81,330,896	9,615	1,381,021	9,615	66,615

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
新興支援投資事業有限責任組合	東京都千代田区神田須田町2 - 8	15,297	18.81
早川 良一	千葉県印西市	6,239	7.67
竹山 中三	静岡県浜松市南区	2,000	2.46
何 積橋	東京都町田市	1,695	2.08
福光 大輔	大阪府大阪市西区	1,468	1.80
DAIWA CM SINGAPORE LTD (TRUST A/C)	6 SHENTON WAY #26-08 DBS BUILDING TOWER TWOSINGAPORE 068809	1,379	1.70
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1 - 2 - 10	1,364	1.68
福光 一七	大阪府大阪市西成区	1,140	1.40
マイルストーンキャピタルマネ ジメント株式会社	東京都港区赤坂2 - 17 - 22	1,000	1.23
福田 弘文	東京都八王子市	841	1.03
計	-	32,423	39.87

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 25,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 81,257,000	81,257	-
単元未満株式	普通株式 48,896	-	-
発行済株式総数	81,330,896	-	-
総株主の議決権	-	81,257	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権の数1個)が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ストライダーズ	東京都港区新橋五丁目 13 - 5	25,000	-	25,000	0.03
計	-	25,000	-	25,000	0.03

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アリアによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	562,123	942,395
売掛金(純額)	¹ 110,263	¹ 74,904
有価証券	-	23,146
たな卸資産	² 21,499	² 23,576
その他	¹ 61,989	¹ 46,865
流動資産合計	755,875	1,110,889
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	358,318	343,170
その他(純額)	131,902	136,145
有形固定資産合計	490,220	479,316
無形固定資産		
のれん	238,714	251,915
その他	10,896	8,976
無形固定資産合計	249,610	260,892
投資その他の資産		
投資有価証券	426,866	32,073
関係会社株式	9,523	-
その他	¹ 60,197	¹ 46,291
投資その他の資産合計	496,586	78,365
固定資産合計	1,236,418	818,573
資産合計	1,992,293	1,929,463
負債の部		
流動負債		
買掛金	85,991	47,201
短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	38,083	45,295
未払金	115,212	62,303
未払法人税等	8,835	6,572
賞与引当金	12,825	13,760
預り金	86,518	78,921
その他	114,711	116,452
流動負債合計	512,178	420,508
固定負債		
長期借入金	258,416	263,620
退職給付引当金	5,606	5,924
長期預り敷金保証金	205,549	207,338
繰延税金負債	22,209	918
固定負債合計	491,782	477,801
負債合計	1,003,960	898,309

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,371,406	1,381,021
資本剰余金	57,000	66,615
利益剰余金	502,879	441,370
自己株式	2,952	2,952
株主資本合計	922,574	1,003,314
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36,052	1,497
その他の包括利益累計額合計	36,052	1,497
新株予約権	690	910
少数株主持分	29,015	25,432
純資産合計	988,333	1,031,153
負債純資産合計	1,992,293	1,929,463

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	720,674	1,225,275
売上原価	536,870	699,893
売上総利益	183,804	525,382
販売費及び一般管理費	301,496	571,316
営業損失()	117,691	45,934
営業外収益		
受取利息	383	85
受取配当金	25,115	48,840
受取手数料	2,937	1,420
貸倒引当金戻入額	228	274
その他	2,868	7,076
営業外収益合計	31,532	57,697
営業外費用		
支払利息	598	4,818
有価証券評価損	-	2,116
新株発行費	-	2,425
為替差損	9,435	-
雑損失	2,211	1,566
営業外費用合計	12,245	10,927
経常利益又は経常損失()	98,404	834
特別利益		
為替差益	-	66,087
その他	-	446
特別利益合計	-	66,534
特別損失		
固定資産除却損	1,180	-
事業譲渡損	-	4,360
特別損失合計	1,180	4,360
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	99,584	63,008
法人税、住民税及び事業税	1,065	5,083
法人税等合計	1,065	5,083
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	100,649	57,925
少数株主損失()	2,517	3,583
四半期純利益又は四半期純損失()	98,131	61,509

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	100,649	57,925
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,836	34,554
その他の包括利益合計	12,836	34,554
四半期包括利益	113,486	23,370
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	110,968	26,954
少数株主に係る四半期包括利益	2,517	3,583

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	99,584	63,008
減価償却費	6,907	14,364
のれん償却額	37,808	22,799
貸倒引当金の増減額(は減少)	339	573
その他の引当金の増減額(は減少)	2,069	1,252
受取利息及び受取配当金	25,499	48,925
支払利息	598	4,818
有価証券評価損益(は益)	-	2,116
新株発行費	-	2,425
為替差損益(は益)	9,435	66,131
事業譲渡損益(は益)	-	4,360
固定資産除却損	1,180	-
売上債権の増減額(は増加)	42,731	34,885
たな卸資産の増減額(は増加)	369	2,077
仕入債務の増減額(は減少)	38,601	38,790
預り金の増減額(は減少)	20,088	7,596
預り敷金及び保証金の増減額(は減少)	11,733	1,789
その他	9,070	29,530
小計	89,872	40,657
利息及び配当金の受取額	25,499	48,925
利息の支払額	565	4,734
法人税等の支払額	9,878	7,466
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,816	3,932
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	-	94,464
有価証券の売却による収入	-	71,138
有形固定資産の取得による支出	3,011	7,955
無形固定資産の取得による支出	2,989	640
事業譲受による支出	100,238	-
投資有価証券の取得による支出	7,082	10,001
投資有価証券の償還による収入	-	418,909
関係会社株式の売却による収入	-	5,016
連結子会社株式の追加取得による支出	-	36,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	122,007	-
貸付金の回収による収入	30,000	298
差入保証金の差入による支出	414	28
差入保証金の回収による収入	-	8,445
投資活動によるキャッシュ・フロー	205,743	354,719

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	-	30,000
長期借入金の返済による支出	3,000	17,583
自己株式の取得による支出	4	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	18,878
新株予約権の発行による支出	-	1,453
その他	-	400
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,004	29,440
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,435	44
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	293,000	380,272
現金及び現金同等物の期首残高	778,909	562,123
現金及び現金同等物の四半期末残高	485,909	942,395

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
流動資産	9,076千円	9,650千円
投資その他の資産	5,236	5,236

2. たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
商品及び製品	12,550千円	12,266千円
原材料及び貯蔵品	8,948	11,309

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
給料手当	89,413千円	99,462千円
賞与引当金繰入額	3,510	9,109
貸倒引当金繰入額	2,445	814

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	485,909千円	942,395千円
現金及び現金同等物	485,909	942,395

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	IT関連 事業	不動産賃貸 管理事業	食品関連 事業	その他の 事業			
売上高							
外部顧客への 売上高	104,552	540,782	62,439	12,900	720,674	-	720,674
計	104,552	540,782	62,439	12,900	720,674	-	720,674
セグメント利益 又は損失()	26,857	9,493	4,784	9,646	41,212	76,478	117,691

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 76,478千円は、主に管理部門にかかる人件費及び経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	IT関連 事業	不動産賃貸 管理事業	食品関連 事業	ホテル関連 事業	その他の 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	69,102	702,753	107,574	342,488	3,357	1,225,275	-	1,225,275
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	113	-	-	113	113	-
計	69,102	702,753	107,687	342,488	3,357	1,225,389	113	1,225,275
セグメント利益 又は損失()	16,608	20,537	14,775	7,917	906	27,528	73,463	45,934

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 73,463千円は、主に管理部門にかかる人件費及び経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、「企業再生再編事業」は量的な重要性が乏しいため、「その他の事業」に含めて記載しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分で記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	1円32銭	0円76銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	98,131	61,509
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	98,131	61,509
普通株式の期中平均株式数(千株)	74,306	80,404
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	0円76銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	-	347
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	株式会社ストライダーズ第6回新株予約権2,500個(新株予約権1個につき、普通株式1,000株)。

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間においては、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成25年10月4日開催の取締役会において、株式会社陽光都市開発(以下「陽光都市開発」という。)との間で、資本業務提携を行うことを決議し、同日付けで資本業務提携契約を締結しております。

(1) 資本業務提携の理由

当社は、当社グループの不動産賃貸管理事業を行っている株式会社トラストアドバイザーズ(以下「トラストアドバイザーズ」という。)と陽光都市開発とが、事業を推進していくことにおいて補完関係を構築し、両社の経営資源・ノウハウを相互に活用することでシナジー効果が期待でき、多様化する顧客ニーズへの対応強化及び両社の企業価値を高め、事業基盤及び経営基盤の強化の拡充を図ることが可能であると判断し、資本業務提携を行うことといたしました。

(2) 契約の相手会社の名称 株式会社陽光都市開発

(3) 契約締結の時期 平成25年10月4日

(4) 契約内容

(イ) 業務提携

トラストアドバイザーズと陽光都市開発とが、エリア特性を活かした管理業務の補完、売買仲介業務の斡旋協力、プラットフォームの共有化、海外展開を行うことについて、当社と陽光都市開発は基本合意しておりますが、詳細は今後両社協議の上で決定致します。

(ロ) 資本提携

当社は、陽光都市開発が実施する新株予約権の発行に際し、発行する新株予約権60個(3,000,000株)のうち4個(200,000株)を平成25年10月21日に引受けいたしました。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月7日

株式会社ストライダーズ

取締役会 御中

監査法人アリア

代表社員 業務執行社員	公認会計士	山中 康之	印
業務執行社員	公認会計士	古屋 尚樹	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ストライダーズの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ストライダーズ及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成25年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成24年11月9日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成25年6月20日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。